

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 2階		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2丁目9番15号		
自己評価作成日	令和5年3月13日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202528-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202528-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年3月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

湖山医療福祉グループの理念である【自らが受けたいと思う医療と福祉の創造】を実現すべく、日々お客様と向き合っています。この3年間はコロナウィルス感染症との戦いでしたが、今年度は残念ながら入居者様、職員ともに罹患者が出てしまいました。しかし、その中で実践したレッドゾーン対応を始めとする様々な対応が職員の現場力をグンとあげてくれたと捉えています。また昨年度に引き続き、デイサービス栄養課からの朝夕の食事提供を継続しており、食事が美味しいグループホームとして自信を持っております。コロナ禍でも楽しんで頂ける企画を提供し、その中で四季を感じて頂ける生活を意識してサービス提供に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

夏祭りや七夕では行事に併せて模様替えをおこない気分を盛り上げるとともに、必ず時節のおやつや料理で「美味しいね」の連呼で喜びを満たしている事業所です。一方、昨年台風15号における記録的な大雨では、浸水被害とともに続いた断水でおよそ1ヶ月の復旧作業となり、これまでにない難儀を味わっています。職員は日常のケアの保持に悩ましい日々を送るに至りましたが、その分団結力も高まっていて、今後は土嚢代わりにブロックや取水版の導入も検討されています。終息後は変わらず誕生会や降りないドライブが継続され、家族アンケートにも「献身的に最良の方法を考えてくださる」といった熱いメッセージが寄せられています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、理念とこやまケア行動指針の唱和を実施。こやまケア行動指針については毎月1箇条をピックアップし、様々な場所に掲示している。	こやまケアの継続と実現は毎日の朝礼から始まり、委員がトイレや更衣室に掲示した「その月の重点目標(10ヶ条ある中から選出される)」を都度目にする事で、職員の言動に溶け込んでおり、家族にも評価されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていない。しかし、少しずつではあるが、密にならない場所や時間を選んで外出する機会を設けるようにしている。	コロナ禍で隣近所のつきあいは、隣の畑を所有する大家さんとの関わりに留まりますが、ウイズコロナには少しずつ前進がみられ、初詣に近くの神社に出かけたり、利用者の中には図書館へ毎週のように通う人もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスの利用者様からの入居相談や緊急短期入所の受け入れなどを実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていないが、日常報告や事業所としての取組み等、細かく振り返りを行ってきた。	運営推進会議は条例に準じて隔月開催を実施していますが、コロナ禍対策として参会ではなく書面のやりとりが長らく続いています。その為、メンバーに状況を把握してもらえよう、写真を封入するなどの工夫をしています。	メンバーから意見がもらえるよう、質問や協力をお願いなど、やりとりに至るような内容を組み込むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種必要提出書類は郵送ではなく、必ず行政の窓口を訪問するようになってきた。また各種加算要件や運営要件等、疑問点は必ず行政に確認を取りながら進めるようにしている。	市から配信される「同報メール」では検査キット配付の通知などを日々確認でき、運営に役立っています。また9月の豪雨被災では(条件が合わず実現しなかったものの)静岡市に助成金の相談にもものってもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束0宣言を掲げている。防犯という意味では20:00以降は施錠するが、身体拘束に該当する行為は行われていない。	四半期毎の身体拘束適正化委員会、新採や転属の職員研修、年2回以上の研修と、減算に係る本件の事柄の取組みは万全です。また利用者の入れ替えもほとんどなく馴染みの関係があることで、特段課題となる事例もありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会等で学ぶ機会を設けている。また、接遇に疑問を感じる職員に対しては早期是正に取り組んでいる。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人の方とお客様の件で関わることは多々あるが、自立支援事業や後見人制度を学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関連は全て所長が行い、不安や疑問が残らない契約を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にあるご意見箱と法人で実施する年に1回の顧客アンケートでご意見・ご要望を頂くようにしている。日常的には電話でのやり取りが主である。	記録には「〇〇様 ご家族がバットを持ってこられる」といった家族の行き来が残され、アンケートでは「大切にしてもらえありがたい」といった感謝や賛辞が挙がっており、家族との良好な関係並びに連携が視えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により法人から会議の制限が設けられているが、部署会議だけは継続しており、そこで職員の意見や提案を聞く機会にしている。また会議に参加できない職員の為に会議前アンケートを行っている。	毎月会議で顔を合わせ、個人においては年2回の面談が位置づけられています。また上下関係も良好で、意見を収受できる態勢にありますが、何と云っても1ヶ月に及ぶ水害では職員の団結が更に高まるに至っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜行う面談の他、年に2回の面談を通じて職員と向き合い力量向上について話しあっている。また賞与や昇給についても全職員の評価が数字に落とし込まれ根拠があるものになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小やリモート、紙面研修等、形は変わってきているが、法人内外の研修、事業所内勉強会、新人OJT、実務者研修、認知症介護基礎研修等、サポート体制は確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということで、他事業所、他法人等、なるべく事業所外の人との接触は制限されているが、以前は他事業所支援、研修等は頻繁に行われていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ず現在のお住まいを訪問し、ご本人・ご家族のご意向や生活歴等を伺うようにしている。また使用している介護サービスがあれば、そこでの様子なども確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご現在のお住まいを訪問し、ご家族のご意向や不安な点は伺うようにしている。契約当日も十分な時間を取って対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の段階でご家族・ご本人の様子やご意向を伺い、自分たち事業所で要望にお応えできるか否かを判断する為の判定会を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と馴染みの関係を構築できるよう努めている。日常生活における食器拭き、ゴミ出し、洗濯物たたみ、掃除なども一緒に行ったり、お誕生日等は皆で一緒にお祝いするなどして家族的な関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族会等の施設での集まりは中止となっているが、毎月、写真付きのお手紙でご様子をお伝えしている。また些細なことでも、ご報告やご相談をするようにしている。今年度よりラインのVOOM機能を利用した動画配信も試みている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということでワクチン接種の有無や、時間、場所の制限はあるが、ご友人、ご家族のご来所の際には面談時間を設けるようにしている。	1階のデイサービスにテーブルを設け、諸所感染対策と時間制限をして面会を続けており、家族の来所頻度もコロナ禍となる前とさほど変わっていません。また晩酌のおつまみや酒類の買い物を楽しみに続ける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性を考え、配席などを決めている。レクも孤立せず参加できるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最期までお看取りできる体制を進めている為、基本的には、ご逝去によるサービス終了の方がほとんどである。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のインテークだけでなく、日常生活の中で聞きとったことや、職員が感じたことなどは、プランに反映できるよう努めている。	日常の関わりから掴んだことは介護計画に反映させ、ケアを1本化出来るよう図っています。また業務日誌には「〇〇様 いつもより表情暗く活気なし」等とあり、非言語への把握にも配慮があることも書面から確認されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昨年に引き続き「お客様勉強会」を年間通して継続している。その方の人生を振り返ることでパーソナリティーに対する理解を深めることに繋がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや会議等を通じて、その方の現況を把握、共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や看護師、医師やご家族の意見を伺い、プランに反映できるよう努めている。	電子記録となったことを活かすべく、記録の残し方や必ず掲載すべきことを職員間で確認できており、モニタリングにつなげています。また介護計画において注視することは赤く色を替え、職員の意識を高めてもいます。	介護計画書の長期目標と短期目標を1つに絞っていますが、メリットとデメリット双方あると思われますので、改めてケアチームで話し合うことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年度から電子記録を導入した。日々の生活記録、医療面での記録、申し送り等、職員間の情報共有がしやすいよう日々検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長く続くコロナ禍の影響で、施設内で可能な毎日の集団体操や季節感を感じて頂く取り組みが継続出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや花屋、薬局や酒屋など近隣のお店に買い物に出かける機会を設けている。また初詣に秋葉山神社、地域の図書館なども利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診があり、日々の状況をフロアリーダーとデイサービス看護師がドクターに伝え、その方の今の状態を細かく伝えるようにしている。	訪問診療が隔週あり、リーダーと勤務看護師が立ちあい、「医療連携記録簿」を介して双方向の情報が残されています。中には医師の所見も綴られ、24時間オンコールであることも併せ、安心な体勢にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と往診医の看護師やデイサービスの看護師とは密に情報交換がなされており、臨機応変に対応、連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんを窓口として、ケアマネ、管理者が日々の病院での様子を確認している。退院時には病院を訪問し、詳細について確認した上でプランに反映させている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には施設における看取りの指針を説明し、入居の段階で看取りについて家族がどう考えているかの意思確認を行っている。実際に看取りの段階になった際にはドクターからの家族説明と私たちにできるケアを説明し、ターミナルケアを提供している。	本年度は2名の看取りがありました。終末期のサービス担当者会議後は、家族の居室への行き来が可能となり、入室2名までの制限以外は家族の思い通りに過ごすことが出来るようにして、最期の時間が十分あったことを感謝されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の事故発生時の勉強会を実施。外部研修についてはコロナ禍ということで参加は見合わせている。往診医は夜間も対応して頂ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練と水害、夜間想定訓練を実施しているが、あくまで想定であり、夜間帯に招集訓練を行ってはいない。実際に昨年9月の台風15号の影響で、施設1階は浸水被害に見舞われた。	9月の水害では、モーターの水を吸い上げる機能が壊れてしまい、被災が1ヶ月と長引きました。そこから「若い女性職員が水を運ぶには小さな給水タンクが必要なんだ」といった改善点も多く見つかると、貴重な財産を得ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや接遇の悪化は虐待の第一歩と重く捉え、厳しく指導している。介護技術より、優しい声掛けと対応が優先と職員にも伝えている。ケアの指針となるこやまケアに基づき、配慮あるケアを心掛けている。	「今までお母さんとして頑張ってきたから」と、母の日にはカーネーションで女性利用者でお祝いするなど、その人を尊重した支援、「飲んでもらいたい」との関わりがみられ、理念が活かしていることが伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にこれからの動きをお伝えしてから行動を共にするようにしている。また日々の会話の中からやりたいこと、したいことを汲みとり、ケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースとなる1日の活動の流れはあるが、その中で起床時間や就寝時間、日中の過ごし方など、基本的にはご本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を着て頂くよう、着る服と一緒に選んだりしている。衣替えなどはご家族に連絡し、服を入れ替えてもらうこともある。誕生日プレゼントとして事業所から衣類をプレゼントすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼・夕食はデイサービスの厨房から提供しており、お客様からは好評である。主に食後の片付けをお客様と一緒にやっている。	以前から食事の美味しさには定評がありますが、事業所では更に安全や品質を求め、「実食簿」をつくっています。階下のデーサービスで全体の3割ほど調理していますが、利用者も食器拭きに励んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は気をつけて記録している。デイサービスからの食事は味も見た目も好評で、以前よりも食事量が増えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯ブラシ、マウスウォッシュ、口腔スポンジ等、その方の状態に合わせて口腔ケアを実施している。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パン利用者の5名ほぼ失敗はないが、13名の方は、リハパンやおむつを使用している。「当たり前の排泄」が実践できるよう、定時の声掛けや、排泄サインを見極めるよう努めている。	立ったり座ったりの訓練も兼ねていることもあり、またさまざまな感覚や意識、動作が複雑に絡み合っ成り立つ排泄行動は生活そのもののリハビリとして、大切に考えており、本人特有のサインを見逃さないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取と運動を心掛けている。薬が処方されている方については医師、看護師からの指示を徹底している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午後ということを決めさせて頂いているが、その中で入浴の希望の有無に合わせてお誘いしている。最低週2は入って頂くよう努めている。今年は企画風呂なども提供することがある。	9月の豪雨被災では断水が1ヶ月となり、何度も水を運ぶことになりましたが、清拭も取り入れ、何とか日々の清潔を確保することは叶っています。復旧後は以前からの花風呂やお茶風呂など、飲びにつながるメニューが再開しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする方、就寝時間、起床時間等、その方の体調、ペースに合わせた睡眠が確保できるよう努めている。夜間帯はフロアの照明も極力落としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携がある為、一包化や情報提供がしっかりなされている。服薬事故についても職員の意識やマニュアルが徹底されてきておりなくなってきた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごみ捨て、掃除、食器拭き、洗濯など、日常生活の中での役割をもって頂くようになっている。また飲酒や手芸等、その方の好きなことは可能な限り続けて行けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということで積極的な外出・外食は行っていないが、気分転換のドライブ、密を避けての初詣など、制限をしながら実施している。日常では近隣のお店への買い物や、隣の畑を見る、敷地内の花をみるなど、外の空気を吸うことを大切にしている。	ウイズコロナも浸透しつつあり、降りないドライブで車窓の景色に和んだり、人けのない場所で自然に親むことが叶っています。また誕生日プレゼントを求め大型販売店へ出かけた日もあり、衛生を気にかけての外出は実現しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人方針としてお客様の現金のお預かりは禁止されている為、買い物の際は事業所が立て替える形になる。その際に極力ご自身で財布からお金を払ってお釣りを受け取るという作業はして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を望まれる場合は都度支援している。また携帯電話をお持ちの方もいらっしゃるが認知症の進行により先方にご迷惑をかけることも増えてきた為、こちらで管理させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには四季を感じて頂けるような飾り付けを意識している。また自尊心を満たすことが出来ればとご本人の書いた習字なども掲示している。	業務日誌の記録からは、フロア温度や冷蔵庫温度の提示測定が確認できます。また電子血圧器や車いすの「点検記載欄」も設けられて日常の安全が十二分に確保され、快適な環境への担保があることが伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事席の他、ソファが置いてある為、皆さん思い思いの場所でくつろいでいる姿を見かけることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などの持ち込みは是非お願いしているが、昔に比べ新しいものを購入して持参される家族が増えたような気がする。	家族が入居に合わせて新しいものを購入して持ち込むようになっていて、各居室似た感じになってきています。車いすが必要となった場合は階下のPTから専門的な助言もあり、暮らしやすさに考慮した工夫に取り組んでいます。	馴染みのものに囲まれた生活様式の事例が法人の事業所の中にないか呼びかけ、あれば写真に収めて見学者に見せていく、といった工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力に合わせた生活ができるよう、DSリハビリ職員の評価も含め、移動手段、居室環境、動線確保等を相談しながら進めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 3階		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2丁目9番15号		
自己評価作成日	令和5年3月13日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202528-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202528-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念である【自らが受けたいと思う医療と福祉の創造】を実現すべく、日々お客様と向き合っています。この3年間はコロナウィルス感染症との戦いでしたが、今年度は残念ながら入居者様、職員ともに罹患者が出てしまいました。しかし、その中で実践したレッドゾーン対応を始めとする様々な対応が職員の現場力をグンとあげてくれたと捉えています。また昨年度に引き続き、デイサービス栄養課からの朝夕の食事提供を継続しており、食事が美味しいグループホームとして自信を持っております。コロナ禍でも楽しんで頂ける企画を提供し、その中で四季を感じて頂ける生活を意識してサービス提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏祭りや七夕では行事に併せて模様替えをおこない気分を盛り上げるとともに、必ず時節のおやつや料理で「美味しいね」の連呼で喜びを満たしている事業所です。一方、昨年台風15号における記録的な大雨では、浸水被害とともに続いた断水でおよそ1ヶ月の復旧作業となり、これまでにない難儀を味わっています。職員は日常のケアの保持に悩ましい日々を送るに至りましたが、その分団結力も高まっていて、今後は土嚢代わりにブロックや取水版の導入も検討されています。終息後は変わらず誕生会や降りないドライブが継続され、家族アンケートにも「献身的に最良の方法を考えてくださる」といった熱いメッセージが寄せられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、理念とこやまケア行動指針の唱和を実施。こやまケア行動指針については毎月1箇条をピックアップし、様々な場所に掲示し、月末に振り返りのアンケートを実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていない。しかし、少しずつではあるが、近所のお店への買い物や、人が密にならない場所などを選んで外出する機会を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスのお客様から入居相談や緊急短期入所のお問い合わせなどは増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていないが、日常報告や事業所としての取組み等、細かく報告させて頂いてきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出や相談事は必ず行政の窓口を訪問するようになってきた。担当の方にも所長の名前を覚えて頂き、逆に制度に関する質問のお電話を頂いた経験もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯という意味で20:00以降は玄関を施錠している。研修や勉強会を通じて、身体拘束をしないケアを理解し実践している。事業所として身体拘束0宣言を掲げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会等で学ぶ機会を設けている。また、少し口調に疑問を感じる職員がいれば都度面談を取って早期是正に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人の方とお客様の件で関わることは多々あるが、自立支援事業や後見人制度を学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関連は全て所長が行い、不安や疑問が残らない契約を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にあるご意見箱と年に1回の顧客アンケートでご意見・ご要望を頂くようにしている。家族会も企画していたが、コロナ禍で中止となってしまった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により法人から会議の制限が設けられているが、部署会議だけは継続しており、そこで職員の意見や提案を聞く機会にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜行う面談の他、年に2回の面談を通じて職員と向き合い力量向上について話しあっている。また賞与や昇給についても全職員の評価が数字に落とし込まれ根拠があるものになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小やリモート、紙面研修等、形は変わってきているが、法人内外の研修、事業所内勉強会、新人OJT、実務者研修、認知症介護基礎研修等、サポート体制は確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということで、他事業所、他法人等、なるべく事業所外の人との接触は制限されているが、以前は他事業所支援、研修等は頻繁に行われていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご自宅を訪問し、ご本人・ご家族のご意向や生活歴等を伺うようにしている。また使用している介護サービスがあれば、そこでの様子なども確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご自宅を訪問し、ご家族のご意向や不安な点は伺うようにしている。契約当日も十分な時間を取って対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の段階でご家族・ご本人の様子やご意向を伺い、自分たち事業所で要望にお応えできるか否かを判断している。場合によってデイサービスやヘルパーを勧めたこともあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と馴染みの関係を構築できるよう努めている。日常生活におけるゴミ出し、洗濯物たたみ、掃除なども一緒に行ったり、お誕生日等は皆で盛大に祝うなどして家族的な関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族会や運営推進会議等は中止となっているが、毎月、写真付きのお手紙でご様子をお伝えしている。また些細なことでも、ご報告やご相談をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということで制限はあるが、時間や場所を限定し、ご友人、ご家族のご来所の際には面談時間を設けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性を考え、配席などを決めている。レクも孤立せず参加できるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の他グループホームに転居した際などは、その方の情報やケアのポイントなどを共有し、転居先と連携、穏やかに生活頂けるよう務めた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のインテークだけでなく、日常の生活の中で聞きとったことや、職員が感じたことなどは、プランに反映できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度は新しい取り組みとして「お客様勉強会」を年間通して実施。一人一人に対する理解を深めることが出来た。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや会議等を通じて、その方の現況を把握、共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や看護師、医師やご家族の意見を伺い、プランに反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、医療面での記録、申し送り等、職員間の情報共有がしやすいよう日々検討している。なお、今年度から生活記録には電子記録を導入した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということが、ある種良い方に動いた例であるが、施設内で可能な毎日の集団体操や季節感を感じて頂く取り組みなどが以前より活発になってきた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣のコンビニや向かいの花屋、薬局や酒屋など、近隣のお店には出かけることが多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診があり、日々の状況をフロアリーダーとデイサービス看護師がドクターに伝え、その方の今の状態を細かく伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と往診医の看護師やデイサービスの看護師とは密に情報交換がなされており、臨機応変に対応、連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんを窓口として、ケアマネ、管理者が日々の病院での様子を確認している。退院時には病院を訪問し、詳細について確認した上でプランに反映させている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には施設における看取りの指針を説明し、入居の段階ではあるが、看取りについて家族がどう考えているかの意思確認を行っている。実際に看取りケアの提供を行ってきた経験もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍ということもあり、極力外部の研修参加は見合わせているが、多くの職員が救急救命講習に参加している。往診医は夜間も対応して頂ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練と水害、夜間想定訓練を実施しているが、あくまで想定であり、夜間帯に招集訓練を行ってはいない。備蓄は法人で用意されたものをストックしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや接遇の悪化は虐待の第一歩と重く捉え、厳しく指導している。ケアの指針となるこやまケアに基づき、配慮あるケアを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にこれからの動きをお伝えしてから行動を共にするようにしている。また日々の会話の中からやりたいこと、したいことを汲みとり、ケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、日中の過ごし方など、基本的にはご本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を着て頂くよう、衣替えなどはご家族に連絡し、服を入れ替えてもらうこともある。誕生日プレゼントとして事業所から衣類をプレゼントすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼・夕食はデイサービスの厨房から提供しており、お客様からは好評である。主に食後の片付けをお客様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は気をつけて記録している。デイサービスからの食事は味も見た目も好評で、以前よりも食事量が増えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯ブラシ、マウスウォッシュ、口腔スポンジ等、その方の状態に合わせて口腔ケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パン利用者の方は、ほぼご自身の管理で問題ないが、その方以外の方々は定時の声掛けや、排泄サインを見極め、極力トイレでの「当たり前」の排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取と運動を心掛けている。薬が処方されている方については医師、看護師からの指示を徹底している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午後の時間帯ということで決めさせて頂いているが、その中で入浴の希望の有無に合わせてお誘いしている。企画風呂なども提供することがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする方、就寝時間、起床時間等、その方の体調、ペースに合わせた睡眠が確保できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携がある為、一包化や情報提供がしっかりなされている。服薬事故についても職員の意識やマニュアルが徹底されてきておりなくなってきた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごみ捨て、掃除、食器拭き、洗濯など、日常生活の中での役割をもって頂くようにしている。また飲酒や手芸等、その方の好きなことは可能な限り続けて行けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということで積極的な外出外食は行っていないが、気分転換のドライブ、密を避けての初詣など、制限をしながら実施している。日常では近隣のお店への買い物や、隣の畑を見る、敷地内の花をみるなど、外の空気を吸うことを大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人方針としてお客様の現金のお預かりは禁止されている為、買い物の際は事業所が立て替える形になる。その際に極力ご自身で財布からお金を払ってお釣りを受け取るという作業はして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を望まれる場合は都度支援している。ただ、時代なのか、携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる、好きなタイミングでかけている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには四季を感じて頂けるような飾り付けを意識している。また自尊心を満たすことが出来ればとご本人の書いた習字なども掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事席の他、ソファが2か所に置いてある為、皆さん思い思いの場所でくつろいでいる姿を見かけることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などの持ち込みは是非お願いしている。先日入居された方は居室内に旦那様の仏壇コーナーを作られ、毎朝手を合わせていらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力に合わせた生活ができるよう、リハビリ職員の評価も含め、移動手段、居室環境、導線確保等精査している。		